

水稻・大豆栽培情報 6月号

令和4年5月17日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【水稻】

1 田植え

トビイロウンカの被害や登熟期間の高温遭遇による品質低下を防ぐため、早植えは行わず、適期植えを行います。また、密植は倒伏や病害虫が発生する原因となるため、避けます。

<p><移植時期> 「夢つくし」：6月15日～ 「元気つくし」、「実りつくし」：6月20日～ 「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」：6月24日～</p>	<p><栽植目安> 坪当たり 50～60 株 1 株当たり 3～4 本</p>
---	---

2 病害虫防除

◇「元気つくし」、「実りつくし」・・・防人箱粒剤

◇「夢つくし」、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」・・・フェルテラゼクサロン箱粒剤

<留意点>

- ・効果の安定のため田植え前日までに散布します
- ・確実に50g/箱を施用します（薬量が少ないと効果が不十分）
- ・散布後は薬剤定着のため軽くジョロでかん水します

3 雑草防除

農薬の使用基準に従い使用期間内に除草剤を使用します。田植えから除草剤の散布まで日があくと雑草の生育も進むため、使用時期が遅れないよう注意します。

<水管理>

- ・除草効果の安定のため、田面を均平にし、散布後7日間は湛水します
- ・除草剤成分の河川への流亡を防ぐため、散布後7日間は落水できません（漏水に注意）
- ・田植え同時処理を行う場合は、田植え後速やかに入水します（土の戻りが悪いところでは薬害が発生するため、使用を避けます）

4 麦わらすき込み田の水管理

麦わらをすき込んだほ場では、ガスが発生し生育障害を起こすことがあるため、ガス抜きを行います。

<水管理>

- ・田植え後、除草剤散布までの間は浅水とします
- ・除草剤散布後1週間は湛水し、その後は間断かん水してガス抜きを促進します

【大豆】

1 播種前作業

○土づくり

◇土壤改良資材の施用（大豆は酸性に弱い作物です）

大豆栽培に適した土壤条件：pH6.0～6.5

※投入量の目安：炭酸苦土石灰、ミネラルG(160～200kg/10a)、土力の素(45kg/10a)

◇有機物の施用（収量向上には地力の増強が必要です）

麦わらの全量すき込み、堆肥の施用、腐植酸質資材の「アヅミン」(40kg/10a)等

○排水対策

麦作後は土壤の亀裂により地下透水性が十分高いため、麦作時の周囲溝を排水溝に繋ぐなど、表面排水を徹底します。

○施肥

◇一般：基肥としてPK化成40号(30kg/10a)を施用します。

◇遅播き：PK化成40号(20kg/10a)＋ちくごのめぐみ444(15kg/10a)を施用します。

2 播種

○種子消毒

紫斑病防除、ハトによる食害の回避等のため、以下のいずれかの薬剤で種子消毒を行います。

薬剤名	処理量・処理方法	備考
キヒゲンR-2フロアブル	種子 10kg に 200ml 塗沫処理	ハト害、紫斑病
クルーザーMAXX	種子 10kg に 80ml 塗沫処理	ハト害、紫斑病 ネキリムシ、アブラムシ

○播種時期と播種量

大豆の収量向上には「**適期播種**」が重要です。適期に播種できるよう早めの準備を行ってください。

播種時期	7月1～20日(適期播き)	7月21日～(遅播き)
播種量	3～5kg/10a	6～9kg/10a

○播種深度

播種の深さの目安は3cmとし、土壤の水分状態に応じて調整し、土が乾燥している場合はやや深めとします。

3 雑草防除（令和4年5月の登録情報に基づいて作成）

使用時期	薬剤名	10a当たり 使用量	10a当たり 希釈水量	備考
耕起前 ※雑草多発ほ場	ラウンドアップ マックスロート [®]	200～500ml	50～100L	
播種後 ～出芽前まで	ラクサー乳剤	400～800ml	100L	いずれか 一剤を 使用
	プロールプラス乳剤 ※イネ科雑草多発ほ場	400～600ml	70～150L	
	ラクサー粒剤	4～8kg	—	

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！